

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 16 日現在

機関番号：15301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653295

研究課題名(和文) “ハブ教員”による美術館の伝統文化コレクション教材化支援にむけての実践的研究

研究課題名(英文) Practical studies in building a support system for teachers making educational materials of Japan's traditional culture out of local museums' collection

研究代表者

山口 健二 (Yamaguchi, Kenji)

岡山大学・教育学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：90273424

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円、(間接経費) 780,000円

研究成果の概要(和文)：岡山県立美術館では2010度「美術館と学校の連携委員会」を組織し、同館の伝統文化コレクション普及のため、学習素材のポータブル化と拠点校への配備を進めてきた。本研究費を受けた成果は、以下の4点でこの事業を発展させたことにある。すなわち、(1)「トランク」のヴァージョンアップ、(2)「トランク」の普及促進、(3)教員の教材研究支援と教員ネットワークの強化、(4)「トランク」を活用したわが国の伝統文化の海外普及である。

研究成果の概要(英文)：The board for the collaboration of schools and Okayama prefectural museum of art was launched in 2010. One of the missions of the board was to enlarge the population who can enjoy the museum's collection. Designing art travelling trunks and loaning them to local schools was found out to be the major solution. This research grant enable the board to achieve 4 kinds of accomplishments. That is, (1)version-up of the contents of the trunks, (2)more wider publicity of the trunk and the collection of the museum, (3)development of the network of school teachers through collaborative lesson studies, and (4)introduction of Japan's traditional culture to other Asian countries.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：伝統文化 鑑賞 教材研究

1. 研究開始当初の背景

2005年の小中高学習指導要領の部分改正により学校と美術館の一層の連携強化が求められているにもかかわらず、また2006年の教育基本法改正により伝統文化の継承が新たな教育課題として重要性を増しているにもかかわらず、美術館の伝統文化コレクションを活用した教材開発は大きく進展していない。この状況を改善すべく岡山県立美術館では2010年度の文化庁の助成を受けて「美術館と学校の連携委員会」を組織し、次の二つの事業に取り組んできた。

(1) 水墨画・備前焼を中心とする学習素材のポータブル化(アートトラベリングトランク、以下、「トランク」と略称)と拠点校への配備

(2) 各拠点校での校内外の研修等を立案し、地域の他の学校教員のトランク活用の促進を担う中核教員(=「ハブ教員」)の職能開発支援。

(3) 美術館と中核教員のネットワーク、さらに中核教員と他の教員のネットワークの設計と構築

本研究は、この事業の検証ならびに事業組織の維持強化をはかるために計画されたものである。

2. 研究の目的

本研究の直接的かつ学術的な目的は「トランク」を活用した授業の教育効果の検証、およびその結果を受けての、「トランク」の改良とより有効な活用方法の提案である。しかしながらこれらは計画の最終目的ではない。各種の教員研修を立案、実施し、検証成果の開示をつうじてさらなる普及を企図している。またポータブル化されることで「トランク」は海外への普及可能性も持つようになる。他の教科と違い 美術関連の教材セットは

視覚的要素によって力を得るものであり言語の壁は低い。海外の高等教育機関との連携により海外普及の可能性を検証する。

研究代表はこれまで岡山県下の美術館と学校を取りむすび、両者が協力して授業単元を開発する場をマネジメントしてきた。岡山県立美術館と共同で授業での使用を念頭に置いた教材開発にも関与してきた。

美術館に求められるのは学校教育のニーズに対応することではなく、学校教育のニーズを掘りおこすことである。いわば美術館によるコンサルタント機能である。来館した子どもに手持ちの作品を提示するだけでは当然、その機能は十全に果たしえない。この機能の実質を担う主体として本研究が位置づけているのが、「ハブ教員」であり、それを中核として広がる教員のネットワーク組織である。このネットワークがもたらすものは、「美術館と学校との連携」というキーワードだけでは包括しえない。子どもたちにとっては新たな学習環境の創出である。

3. 研究の方法

われわれの研究課題は次の四つのユニットからなる。これらすべてのユニットにおいて、岡山県立美術館の「美術館と学校の連携委員会」との連携のもと研究を進行する。研究代表も参画する同委員会は美術館スタッフ・学術関係者・現職教員に加えて、岡山県小学校図画工作教員部会長、同中学校美術教員部会長からもバックアップを得ている。本研究は同委員会との密接な連携のもと推進される共同研究である。

(1) 「トランク」を教材とした授業の「ハブ教員」との共同立案、「トランク」の普及促進にむけた補助教材の作成、ならびに「トランク」の改良

(2)「トランク」配備校および岡山大学・岡山県教育センターでの研修を通じた教員ネットワークの構築

(3)コレクションを活用した教材開発に実績をもつ美術館の訪問調査

(4)「トランク」を活用したわが国の伝統文化の海外普及の可能性の検証

4. 研究成果

岡山県立美術館では2010度「美術館と学校の連携委員会」を組織し、同館の伝統文化コレクション普及のため、水墨画・備前焼を中心とする学習素材のポータブル化と拠点校への配備を進めてきた。本研究費を受けた成果は、以下の4点でこの事業を発展させたことにある。

(1)「トランク」のバージョンアップ

観賞用備前焼(細工物)、特別支援教育での鑑賞補助教材等を新規にパッケージ化しトランクの教材としての充実度を高めた。これらは「トランク」配備校の現職教員の声を踏まえたものである。

(2)「トランク」の普及促進にむけた補助教材の作成

岡山県下の全小中学校に2012年4月、「トランク」の普及促進にむけた補助教材(リーフレット)を配備した。

(3)教員の教材研究支援と教員ネットワークの強化

「トランク」配備校の“ハブ教員”の教材開発支援を実施するとともに、“ハブ教員”を中心とする夏季休業期間の校内研修を企画した。教員ネットワークの強化が進むにつれ、教員と美術館とのコミュニケーションも円滑化した。上記(1)(2)はこうした関係のなかで得られた成果でもある。また岡山県教育

センターでの研修にも参画し、さらなるネットワークの拡大を試みた。その成果については、平成24年度に日本美術教育学会および美術科教育学会にて報告を行った。

(4)「トランク」を活用したわが国の伝統文化の海外普及

この課題については研究最終年度に精力的に取り組んだ。美術館コンテンツのポータブル化をつうじて第一に得られる成果は地理的アクセス問題の解消である。今回の研究プロジェクトの出発点は、岡山県立美術館のコレクションを、来館が地理的に難しい県内の学校でも活用できるようにすることであったが、いったん地理的アクセス問題が解消されれば、その到達可能範囲は県はもちろん、国をも越えて拡大しうる。さらに、われわれがトランクの設計段階で高品質の現物教材をパッケージ化しえたことも重要である。教材の質が高ければ、視覚的アピールはさらに強くなり、「言語の壁」は相対的に低くなる。

2013年9月に中国省浙江省の杭州師範大学にて、2014年3月に台湾花蓮市と高雄市の公立小学校にて、トランクを持ち込んだ日本の伝統文化セミナーを実施した。前者は教員志望学生を、後者は現職教員を対象とするものである。いずれも好意的な評価を受け、今後、海外教員とのさらなる共同研究へと発展しうる関係基盤が構築しえた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

山口健二・赤木里香子・大橋功

「岡山県立美術館 学校と美術館の連携委員会」の戦略と成果
美術教育、査読有、297巻、2013、P.32-42

〔学会発表〕(計2件)

(1)伝統文化の授業化をめざす教員支援プロジェクト

山口健二・赤木里香子・大橋功・平田朝一・岡本裕子

美術科教育学会

2013年03月28日

島根大学

研究者番号：なし

(2)アート・トラベリング・トランクの作成と教員ネットワークの構築

山口健二・赤木里香子・大橋功

日本美術教育学会

2012年08月19日

愛知芸術文化センター

〔図書〕(計0件)

6. 研究組織

(1)研究代表者

山口 健二 (YAMAGUCHI KENJI)

岡山大学・教育学研究科・準教授

研究者番号：90273424

(2)研究協力者

赤木 里香子 (AKAGI RIKAKO)

岡山大学・教育学研究科・準教授

研究者番号：40211693

大橋 功 (OOHASHI ISAO)

岡山大学・教育学研究科・準教授

研究者番号：70268126

平田朝一 (HIIRATA ASAICHI)

岡山県総合教育センター・指導主事

研究者番号：なし

岡本裕子 (OKAMONTO YUKO)

岡山県立美術館・主任学芸員